

若手職員研修 ③ 「特用林産」 を開催しました

日 時： 令和6年1月16日（火） 10：30～15：30

場 所： 香川県森林センター 実習室 ほか

参加者： 林業関係部署の若手県職員（林業職3名）と一般事務職1名
指導者として西部林業事務所の職員1名と森林センターの職員2名

主 催： 香川県森林センター



① 講義「今、なぜ薪か」

西部林業事務所の担当から、香川の山の今昔と、広葉樹を活用する必要性を学びました。



② 講義「特用林産」

森林センターの林業普及指導員から、特用林産物の紹介と炭について話がありました。



③ 実習「鑑賞炭づくり」

材料となるドングリや松ぼっくりを選んで缶に詰めます。



樹木が蓄えた二酸化炭素の量を計算するために、炭化前の重さを量ります。



④ 実習「今、なぜ薪か」

ナタを使って広葉樹を薪に仕立てます。材の硬さやつくりが樹種ごとに異なることが手に伝わります。



ファイヤースターターを使って麻縄等に火をついたら、松や杉の枯葉、細枝へと火を移して大きくしていきます。



火吹き棒で炎を安定させながら薪をくべます。樹種によって燃えるスピードやはぜる音、煙の香りが違うことがわかりました。



鑑賞炭づくり開始です。少しすると白い煙が勢いよく出てきます。煙が見えなくなったら火からおろします。



⑤ 実習「竹炭焼き」

枯れたモウソウチクを竹割り器を使って割ります。最初に木槌で刃を食い込ませるのがコツです。



割った竹を簡易軽量炭化炉「簡単スミヤケル」に詰めます。炉内の温度の上がり方を考えて配置します。



習ったばかりのファイヤースターターと火吹き棒を使って着火を試みます。ここでも杉の枯葉や松ぼっくりを焚付材にしました。



⑥ 見学「林業で使う道具」

森林センター所長から、チェーンソーや刈払機など動力を使う林業道具の説明がありました。



安定して白煙が出るようになりました。煙の色が青から透明になるのを待ちます。



鑑賞炭の完成です。炭化後の重さを量り、蓄えていた二酸化炭素の量を算出し、生活で排出される二酸化炭素を吸収するにはどのくらいの樹木が必要かを考えました。



⑦ 見学「園内散策」

シイタケ原木栽培試験地やクリ山地栽培試験地など特用林産に関係するポイントを回って理解を深めました。



ふりかえりでは「木材を使って楽しいことができるのがわかった」「山にある宝物をどう生かすか考えていきたい」などの感想がありました。